

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4070502101
法人名	有限会社 ジューム
事業所名	グループホーム なごみ春ヶ丘
所在地 (電話番号)	福岡県北九州市小倉南区春ヶ丘5-1 (電話) 093-931-5961

評価機関名	株式会社アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成20年12月25日	評価確定日	平成21年1月29日

【情報提供票より】(平成20年12月4日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年8月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	7 人
職員数	12 人	常勤	4人, 非常勤 8人, 常勤換算 6.7人

(2) 建物概要

建物構造	コンクリート造り		
	2階建ての	1階	~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000・32,000・50,000円	その他の経費(月額)	(水道光熱費)500円/日	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000円)	有りの場合 償却の有無	無(退所時補修費を除き返還)	
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	200 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(12月4日現在)

利用者人数	7名	男性	0名	女性	7名
要介護1	1名	要介護2		1名	
要介護3	2名	要介護4		1名	
要介護5	2名	要支援2		0名	
年齢	平均 81.7歳	最低	74歳	最高	90歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	東和病院 / 松木整形外科医院 / 香川病院 / うりゅうデンタルクリニック
---------	----------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームなごみ春ヶ丘は、小倉南区の主要官公庁に近く、スーパーや公園等もある閑静な住宅地の一画にある。入居者がこれまでの生活環境が持続でき、明るく笑顔で晴れた日も雨の日も和やかに過ごせるようにと願って平成16年に設立された。住まいは既存の建物で食堂とリビングを中心に1階に4部屋、2階に4部屋のグループホームである。庭は広く日当たりがよく、園芸・菜園・ガーデニングも出来るので入居者は春先からは花を育て、自宅から持参した植木の手入れ等を楽しまれている。ホームの運営としては、「ゆっくり明るく笑顔と共に太陽を楽しみ雨を楽しむ、なごみのくらし」をテーマに管理者・職員が、ゆったりとした気持ちをいつも持ち、入居者の方々と接するように心がけている。ミニチュアダックスの小春とちよっぴりメタボのなごみちゃん親子は入居者と大の仲良しで、散歩に行ったり昼寝に寄りそったりと職員の一員として活躍している。ホームの生活は職員の愛情に見守られ、みんなで明るく寄りそい助け合いながらゆったりとしており、心から安心して和める暮らしを実現している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	評価の必要性については、十分認識しているが、前年度の外部評価は入居者の状態変化で時期が外れてしまったので、今回の評価については実践可能な項目に課題を絞り、職員全員で改善に向けて取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	入居者の支援向上については経験や習熟度に応じた育成が不可欠で研修の機会を確保すると共に研修内容をホーム内で報告する等工夫を重ねていきたいと考えている。重度化や終末期への方針については、ある程度決めていたので、今後はきちんと明文化した方針を作成し、職員全員で共有していきたいと考えている。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議に地域や市職員の方々の参加・協力を得て3ヶ月に1回開催している。地域住民の方には、ホームの理解を育む場となっている。会議の内容が活かされていないので、今後は協議内容の記録を整理し、その意見や要望がホームや地域の運営に活かされるように努めていきたいと考えている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	ご意見箱や相談窓口については入居時に説明し、日頃からお互いに言いやすい関係づくりを心がけているが、家族によっては多忙なためか、あまり意見を伺えない場合もあるので、入居者の支援をより良くしていくためにも行事参加などに関心を持っていただけるように工夫していきたいと考えている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	1年間、隣組の組長を務めたり、校区の夜回り・運動会・清掃活動・老人会の行事など出来る範囲で入居者と参加している。地域住民の方たちも高齢者が多いので、町内の役員さんとも、運営推進会議等でホームで協力できることなどを話し合い、地域密着型サービスとしての役割を果たそうと努めている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	ホーム設立時より地域との関わりを大切に考えており、入居者が地域の一員として生活できるように理念に掲げている。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	朝のミーティング時に職員が元気で楽しく過ごせることが理念遂行の第一であることを述べると共に理念を念頭においた日々の介護に取り組んでいる。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい	1年間、隣組の組長を勤めたり、校区の夜回り・運動会・清掃活動・老人会の行事など出来る範囲で入居者と参加している。地域住民の方たちも高齢者が多いので、町内の役員さんとも、運営推進会議等でホームで協力できることなどを話し合い、地域密着型サービスとしての役割を果たそうと努めている。		
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用	評価の必要性については十分認識しているが、前年度の外部評価は入居者の状態悪化で時期が外れてしまったので、今回の評価については実践可能な項目に課題を絞り、職員全員で改善に向けて取り組んでいる。		評価の意義や目的については職員全員に伝え、協力して取り組むことが教育活動の一つであり、そのことがケアの振り返りや見直し等に活かされるので自己評価・外部評価の結果についても運営推進会議や職員ミーティングで報告し、改善に向けての検討課題にしてほしい。
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	地域や市の職員の方の参加を得て3ヶ月に1回開催している。地域住民の方にはホームについての理解を育む場となっている。会議の内容が活かされていないので、今後は協議内容の記録を整理し、その意見や要望がホームや地域の運営に活かされるように努めていきたいと考えている。		
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携	ホームの運営や入居者についての相談などの連絡調整については積極的に行っている。現在は、ボランティアの受け入れについて相談しており、まだ十分な成果は得られてないが徐々に進めていきたいと考えている。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用	当グループホームでも成年後見制度の適用者がおられ、手続きの手順など具体的に体験できた。高齢者に対する法律や制度は入居者の生活を守るために重要なことであるので勉強会を持ち理解を高めていきたいと考えている。		
		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。			
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告	常時個別での連絡は電話などで密に行っている。なごみ便りを年4回発行し、ホームでの生活を写真などで伝えたり、家族が安心できるように個人個人の状況報告も手紙形式で行っている。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
9	15	運営に関する家族等意見の反映	ご意見箱や相談窓口については入居時に説明し、日頃からお互いに言いやすい関係づくりを心がけている。家族によっては多忙なためか、あまり意見が伺えない場合もあるので、入居者の支援をより良くしていくためにも行事参加などに関心を持っていただけるように工夫していきたいと考えている。今回、医療にかかる費用に関して事前の相談などをお願いしたいと家族の要望が出ている。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
10	18	職員の異動等による影響への配慮	入居者が安心して介護が受けられるために離職などがないように十分配慮しているが、退職・長期休暇等ある場合は、万全の引継ぎをしており、家族にもその旨を伝え、入居者・家族共にダメージがないように取り組んでいる。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重	職員採用については特に規定はないが、自己の能力に応じて不安や心細さを抱き、暮らしている入居者に寄りそっていきける人が望ましいと考えている。そのためには、個人の能力に応じて、楽しく働いてもらえるように悩みや相談など管理者として気軽に相談などができるように心がけている。		
		法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員に対しても、その能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	理念を遂行する為には職員に対して、日頃より人権教育に取り組まなければならないと考えている。2～3ヶ月に1度、身近なテーマで勉強会を開き、お互いの意見交換を行い、人権に関する意識を高めている。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	市・県の研修会には参加し、参加時には入居者のケアに支障がないようお互い職員同志で協力し合っている。		入居者の支援向上については、職員の経験に応じた育成が不可欠であるので、研修の機会を確保し、職員全員が向上心を持って取り組めるように管理者として工夫してほしい。
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	運営者や管理者は他のグループホームへの訪問等あるが職員間の交流がなく、何かのきっかけを作りたいと考えている。今後は、職員の意欲向上のために、職員も他のグループホームを訪れる機会を持つなど、ネットワークを高めていくことが求められる。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	入居申し込みがある場合は、必ず本人・家族と面接を行っている。病院の入院中などは必ずカンファレンスに参加し、現状把握に努めている。まずは、ホームの雰囲気馴染んでもらいたいのので出来る限り入居前の見学をしていただき、徐々にホームに慣れていただくように取り組んでいる。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	入居者の趣味や特技について、職員が教わるが多く、そのことで職員と入居者に親近感が芽生え、良い関係ができていく。例として俳句の季語を習ったり、食卓に使うランチョンマットの作り方を教わったりと、入居者の経験や知恵を活かせるように暮らしの中で学び、支えあう関係を築いている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>ひとり一人が、これまでの生活を大切に、その人らしい暮らしを送ってもらうためには、安心してその思いを伝えることが大切であるため、職員は常に共感的態度で話を傾聴するように心がけている。そのことで上手に思いを語れない人の思いもしっかり汲み取るよう努めている。</p>		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>必要に応じて、家族・医療関係者等と連絡を取り、本人がより良く暮らしていけるプランを作成しているが、家族によっては連絡・訪問がほとんど無く、こちらからの電話にも応答が無い状況である。家族には当グループホームからの電話には折り返し連絡していただくように呼びかけている。</p>		<p>個別的な計画作成についてはチーム全体の情報交換で家族の現状や意向を大切に、納得していただけるように今後も協力を呼びかけてほしい。</p>
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的なミーティングを行い、入居者の状況の変化など職員全員で共有し、主治医との連携を図り、必要時にはプランの見直しを行い常に現状に即した計画作成を行っている。</p>		
3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>生活必需品の購入など家族ができない場合は、ホームで行い出来るかぎり、本人・家族の要望に答えられるよう柔軟に対応している。地域との交流では町内の清掃や夜回りなどは経営者と管理者が出向いており、今後も出来ることから取り組んでいきたいと考えている。</p>		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>歯科は週1回、内科往診は月3回、認知症については月1回と定期的な診察を受けており、24時間体制で連携可能であり、健康面等十分支援しており、入居者も往診日を楽しみにしている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	重度化や終末期のあり方については入居前より、ホーム側・家族側の意向を十分に話し合い、入居後も医師の判断を含め、職員全員でしっかり共有している。		ホームの方針としては、ある程度決めているが、開設より4年目となり入居者も年々老いてこられ、避けて通れない問題でもあるので、医師と連携のもと入居者本位の対応について繰り返し話し合って支援してほしい。
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	誰にとっても、プライバシーの侵害は心の不安を引き起こす一番の要因であることを職員自身も含め十分理解し言葉かけや対応については注意を払っている。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	一日の生活予定表はあるが、重度化された入居者もいらっしゃるので、一人ひとりのペースを大切にその日の天気や体調を考慮し希望にそっている。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	米や野菜は業者さんより納入してもらってるが、他の食材はスーパーへ入居者と買い物に出かけている。食事の準備から後片づけ等は強制せず、出来る範囲で手伝ってもらっており、食事中はさりげなくひとり一人に合わせた支援を行っている。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	週に3回は必ず入浴出来るようしている。入浴は清潔の保持以外に全身状況の把握にも重要であるので、拒否される方にはそれなりの理由があることを考慮し支援している。皮膚疾患や失禁状態の方には部分的な清潔保持に努めている。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	ホーム内で各自が出来ることを見出し、日常の清掃・洗濯物たたみ・犬の散歩・新聞紙の整理など負担にならないように、今まで出来たことが長くできるように支援している。個人的な楽しみも出来るだけ続けられるように支援している。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	食材の買い物・犬の散歩・神社までの散歩・美容院への整髪等、極力外出する機会を多くつくり、職員と一緒に出かけている。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	玄関の施錠は夜間のみで自由に出入り可能である。安全面については、必ずリビングを通らないと玄関へは出ていけないので、外出の傾向がある場合は、職員の見守りにより、サポートできる体制を整えている。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	消防訓練は地域の協力を得て行っている。また、お互いに近隣火災時の協力体制も決めており、緊急時の対応についても消防署より訓練を受けている。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	野菜を中心に献立を工夫し、かかりつけ医より栄養面の指導も受けているので、個々に応じた支援ができています。職員に調理士免許取得者がいるので、味や盛り付けも高齢者の好みに合わせており、食べ残しは少ない状況である。水分摂取についても時間を決めて、必要な水分摂取量を確保している。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	既存の住宅を使用している為、入居後も違和感なく過ごされている。温度調整や換気もこまめに行っている。「香り」についても不快がないように、常に心がけている。行事に合わせて飾りつけも行い、季節感を感じていただけるように取り組んでいる。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	一人ひとりの居室自体が同じではないので、住まいを使いやすいように手すりをつけたり、自宅で使い慣れたものを持ってきてもらう等家族と共に考え工夫している。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			